

(別添)

2019年9月26日

NITE(ナイト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構

中国支所

News Release

リコール情報を見逃さずに事故を防ぐ ～身の回りの製品がリコール製品か確認しましょう～

—中国5県版—

1. リコール製品の重大事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}では、リコール製品の重大事故は、中国地方5県(鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県)では2007年度から2018年度までの12年間に67件^{※2}ありました。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故。

(※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(1) 中国5県の年度別 事故発生件数

表1に「年度別・県別」リコール製品の重大事故発生件数を示します。

表1 「年度別・県別」リコール製品の重大事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
2007年度			3	5		8
2008年度	1		1	4	1	7
2009年度		1	2	1		4
2010年度	2		1	7		10
2011年度			1	1		2
2012年度	1		1	3	1	6
2013年度				6	2	8
2014年度			1	1	1	3
2015年度			3	6		9
2016年度			1	2		3
2017年度			3		2	5
2018年度				2		2
合計	4	1	17	38	7	67

(2) 中国5県の被害状況別 事故発生件数

表2に「被害状況別・県別」リコール製品の重大事故発生件数を示します。

表2 「被害状況別・県別」リコール製品の重大事故発生件数

被害状況 ^{※3}		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡						0
	重傷				1		1
	軽傷				2		2
物的被害	拡大被害	3		10	22	5	40
	製品破損	1	1	7	13	2	24
被害なし							0
合計		4	1	17	38	7	67

(※3) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 中国5県の事故原因区分別 事故発生件数

表3に「事故原因区分別・県別」リコール製品の重大事故発生件数を示します。

表3 「事故原因区分別・県別」リコール製品の重大事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの	3		12	23	4	42
B：製品及び使い方に問題があったもの			2	9	1	12
C：経年劣化によるもの	1	1	1	5	2	10
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの			2	1		3
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						0
E：誤使用や不注意によるもの						0
F：その他製品に起因しないもの						0
G：原因不明のもの（G3を除く）						0
H：調査中のもの						0
合計	4	1	17	38	7	67

2. 事故事例の概要について

中国5県で発生したりコール製品の重大事故の主な事例を示します。

- ① 製造上で不具合があったバッテリーを内蔵した携帯型音楽プレイヤーを繰り返し充放電し、バッテリーが劣化して発火。

2010年9月（岡山県、年齢不明・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

携帯型音楽プレイヤーを充電中、当該製品から出火する火災が発生し、当該製品及び周辺を焼損した。

【事故の原因】

事故の原因は、携帯型音楽プレイヤーのバッテリーセル内部に製造上の不具合があったために、充放電を繰り返すうちにセル内部の絶縁部が劣化し、バッテリーが内部短絡を起こし過熱に至ったものと考えられた。

- ② 修理が不適切であったため洗濯機内部に水が浸入し、トラッキング現象によって発火。

2014年9月（岡山県、50歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

洗濯機を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

事故原因は、当該事業者のサービス会社が行った修理時に、モーターリード線のコネクタ一部を覆う防水袋を適切に固定しなかったため、水跳ねした塩素分を含んだ洗濯水がコネクタ一部に浸入してトラッキング現象が発生し、出火したものと推定される。

- ③ ガストーチの締め付けねじの不良によりガスが漏れ、使用中のガストーチの火が引火。

2017年6月（岡山県、年齢不明・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

飲食店でガストーチにガスボンベを接続して使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

ガストーチのガスボンベ取付け部の固定ネジに締め付け不良があったため、取付け部にすき間が生じてガスが漏れ、バーナーの火が引火して火災に至ったものと推定される。

3. リコール製品の確認方法について

○最新のリコール情報を入手する

事業者のホームページや消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しています。お持ちの製品がリコール製品かどうかを確認することが可能です。

製品が発売されてから数年後にリコールを実施したという事例や、型式などに限定せず、長期間使用していることを注意喚起している製品などもあります。

また、使用しなくなり、保管されていた製品がリコール製品だった事例もあるため、併せて注意が必要です。

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/index.php>



NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989 年度）以降に製造事業者、販売事業者などの事業者が行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。

また、NITE が配信している Twitter (@NITE_JP) やメールマガジン (PS マガジン) には最新のリコール情報なども掲載しております

<https://www.nite.go.jp/jiko/jiko-db/recall/search/>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」などの単語で検索してください。



4. リコール製品の重大事故の実験映像について

リコール製品の重大事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

(本件に関するお問い合わせ先)

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館
独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所
担当者 : 灰川、木下、折田
電話 : 082-211-0411

以上